

## (臨床研究に関するお知らせ)

### 和歌山県立医科大学附属病院脳神経内科で超音波嚥下機能検査を受けた患者さんへ

和歌山県立医科大学脳神経内科学講座では、以下の臨床研究を実施しています。ここにご説明するのは、過去の診療情報や検査データ等を振り返り解析する「後ろ向き観察研究」という臨床研究で、本学倫理審査委員会の承認を得て行うものです。すでに存在する情報を利用して頂く研究ですので、対象となる患者さんに新たな検査や費用のご負担をお願いするものではありません。また、対象となる方が特定できないよう、個人情報の保護には十分な注意を払います。

この研究の対象に該当すると思われた方で、ご自身の診療情報等が利用されることを望まない場合やご質問がある場合は、下記の問い合わせ先にご連絡ください。

#### 1. 研究課題名

パーキンソン病における超音波嚥下機能検査に関する後ろ向き観察研究

#### 2. 研究責任者

和歌山県立医科大学脳神経内科学講座 助教 阪田 麻友美

#### 3. 研究の目的

パーキンソン病では経過中に80%以上で誤嚥による肺炎が認められます。飲み込み（嚥下）の障害により誤嚥が起きますがその原因は未だはっきりしていません。嚥下機能の評価としては内視鏡を使用したり造影剤を飲み込んでレントゲン撮影を行ったりしますが患者さんへの負担や時間もかかり頻回にできる検査ではありません。そこで、患者さんへの負担も少なく短時間で簡便にできる超音波検査が注目されており、パーキンソン病での報告も増えてきております。パーキンソン病では嚥下障害の自覚がなくても潜在的に嚥下障害があるといわれていますがその実態は明らかにされていない部分が多く、今回超音波嚥下機能検査のデータを解析することによりパーキンソン病の潜在的な嚥下障害の特徴を明らかにし、今後の臨床研究のための事前の調査とします。

#### 4. 研究の概要

##### (1) 対象となる患者さん

当院脳神経内科に通院歴、入院歴のある患者さんで、令和2年7月1日から令和3年3月31日までの期間中に、超音波嚥下機能の検査を受けた方。

##### (2) 利用させて頂く情報

この研究で利用させて頂くデータは、疾患名、発症年齢、罹病期間、性別、症状、治療歴、合併症、嚥下機能検査の結果、画像検査結果に関する情報に関する情報です。

##### (3) 方法

電子カルテ上で脳神経内科に通院歴、入院歴があり、超音波嚥下機能検査を施行された方を検索しパーキンソン病と非パーキンソン病に分類し、症状の重症度と超音波嚥下機能検査結果について探索的に解析を行います。

#### 5. 個人情報の取扱い

利用する情報からは、患者さんを特定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されることがありますが、その際も患者さんの個人情報が公表されることはありません。

#### 6. ご自身の情報が利用されることを望まない場合

臨床研究は医学の進歩に欠かせない学術活動ですが、患者さんには、ご自身の診療情報等が利用されることを望まない場合、これを拒否する権利があります。その場合は、下記までご連絡ください。研究対象から除外させていただきます。なお、研究協力を拒否された場合でも、診療上の不利益を被ることは一切ありません。

**7. 資金源及び利益相反等について**

開示すべき COI 関係にある企業等はありません

**8. 問い合わせ先**

和歌山市紀三井寺 811-1

和歌山県立医科大学脳神経内科学講座 担当医師 檜皮谷 泰寛

TEL : 073-441-0655 FAX : 073-441-0655

E-mail : shinnai@wakayama-med.ac.jp